

2015年4月1日から2015年7月31日までマイコプラズマ感染症と診断を受けた患者さんへ

研究課題名：マイコプラズマ気道感染症と肺炎の比較検討

マイコプラズマは市中肺炎の原因菌として頻度の高い微生物ですが、上気道炎など、かぜ症候群（普通感冒）でとどまる症例も多く存在します。このような症例は、ウイルス感染症と区別ができず、通常の感冒薬には反応せず、肺炎へ進展する場合があります。また、咳嗽が遷延し専門外来を受診する患者さんも多く経験します。このため私たちは、マイコプラズマ感染症の新たな診断法や治療法を模索する研究を行っています。

当教室では川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の承認を得て、2015年4月1日から2015年7月31日の間にマイコプラズマ感染症と診断された患者さんを対象とします。マイコプラズマ気道感染症例と肺炎症例の臨床像を比較し、臨床的鑑別法を確立します。本研究の成果として日常診療で難渋する咳嗽患者さんの新たなアプローチが明らかとなり、患者さんに対する適切な治療法が実施可能になります。

本研究は観察研究であり、既存資料のみを用いた研究であるため、新たな人体試料の採取は行いません。また、個人が直接同定されうる情報は収集いたしません。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。この研究では主任研究者の教員研究費のみを使用いたします。総合内科学1教室は大正富山医薬品株式会社、第一三共株式会社、日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社、武田薬品工業株式会社、アステラス製薬株式会社から年間50万円以上の奨学寄付金を受け取っていますが、利益相反委員会に申告を行い適正に管理されています。尚、上記企業は本研究とは関係ない企業です。

本研究への不参加や、参加取りやめを希望される方または、何か不明なことがありましたら、実施責任者である下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

[問い合わせ先] 総合内科学1 准教授 宮下修行

電子メール：nao@med.kawasaki-m.ac.jp

電話 086-225-2111(内線 8006)